宝生会月並能

平成三十一年四月十四日（日）
開演 十四時
開場 十三時十五分
於 宝生能楽堂

14:00

嵐山

勝手 當山 淳司
木守 内藤 飛能
姥 大友 順
シテ 朝倉 俊樹

ワキ 舘田 善博
ワキツレ 梅村 昌功
〃 野口 琢弘
間 飯田 豪

大鼓 亀井 広忠
小鼓 住駒 充彦
太鼓 小寺 佐七
笛 藤田 次郎

後見 登坂 武雄
小倉健太郎
亀井 雄二

地謡 高橋 憲正
小林 晋也
水上 優
高橋 亘
金井 雄資
前田 尚廣
田崎 隆三
金森 秀祥

15:10

咲嘩

野村 萬斎

野村太一郎
深田 博治

〈休憩十五分〉

15:55

山姥

ツレ 佐野 弘宜
シテ 佐野 由於

ワキ 森 常好
ワキツレ 則久 英志
〃 御厨 誠吾
間 石田 幸雄

大鼓 國川 純
小鼓 幸 信吾
太鼓 三島元太郎
笛 寺井 義明

後見 宝生 和英
辰巳満次郎

地謡 澤田 宏司
和久荘太郎
小倉伸二郎
山内 崇生
小倉 敏克
三川 淳雄
當山 孝道
藤井 雅之

終演予定 十七時四十分頃

演目の解説

能「嵐山」（あらしやま）

帝の命で嵐山の桜を見に臣下がやって来ます。桜の名所は吉野山なのですが、御幸には遠いので、京の嵐山に移植されたのです。臣下は桜の木の下を清める老夫婦に会い、言葉を交わします。老人は、この桜は吉野の桜を移したので、吉野の神々も降臨すると言い、西の空に去って行きます。その後桜の枝を手にした女神の木守、男神の勝手の二神が現れ、舞を舞っていると、蔵王権現が颯爽と出現して豪快な舞を舞います。

狂言「咲嘩」（さっか）

連歌の宗匠を頼むため、都の伯父を連れて来るよう主人に命じられた太郎冠者。都へ行くと、伯父と名乗る男が声を掛けるのでさっそく連れ帰りますが、この男、実は「見乞の咲嘩」という有名な詐欺師。正体に気付いた主人は、咲嘩を穏便に帰らせるよう言いつけますが、太郎冠者の勘違いで、事態はどんどんトンチンカンな方向に…。

能「山姥」（やまんば）

都で「山姥の山廻り」の曲舞で有名になった百万山姥という遊女が、伴の男達と善光寺参りの途中、俄かに暮れた山中で途方に暮れていると、一人の女に呼止められます。女は自分の家に一行を案内し、遊女に曲舞の一節を謡ってくれと言います。不審に思う一行に女は山姥の本当の姿を問い、山に住む女ならばそれは正に我が身のことと答えて姿を消し、遊女の謡につられるように真の山姥の姿となって現れます。大自然そのものが人間の姿となって現れたような山姥は、山廻りの様を見せ、山々峰々を廻って去って行きます。

次回予告

二〇一九年五月十二日（日）
十四時始

熊野 金井雄資
須磨源氏 東川光夫